

水質保全施設等(フラッシュ操作)の評価

フラッシュ操作による水質保全効果の検証結果及び評価

項目	検証結果	評価
DOの改善	<ul style="list-style-type: none">伊勢大橋地点、長良川大橋地点ともに、底層DOの改善効果が見られる。フラッシュ操作前の底層DOが低いほど改善率が高かった。使用ゲートの違いについては、改善効果に顕著な差は見られなかった。長良川大橋地点では、放流量を増大したほうが底層DOが改善する傾向にあった。	<ul style="list-style-type: none">フラッシュ操作による水質保全対策は、現在(平成26~28年度の3カ年)試行中であり、一定の改善効果が見られる。今後、長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関するモニタリング部会において、その効果について評価する。
藻類	<ul style="list-style-type: none">クロロフィルaに対する改善効果が見られる場合がある。伊勢大橋地点では、フラッシュ操作前のクロロフィルaの値が高いほど、改善率が高くなる傾向がみられる。	

更なる弾力的な運用に関するモニタリング部会の指導を受けながら、今後も効果的なフラッシュ操作を実施していく。